

平成29年8月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年8月22日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	13時30分	
	閉会	14時20分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安田充年	教育次長	天野和弘
統括審議監	小西洋史	審議監(社会教育担当)	澤岡哲雄
審議監(企画総務担当) (教育企画総務課長事務取扱)	村田守	審議監(生涯学習担当)	近藤康彦
審議監(公民館担当) (中央公民館長事務取扱)	西崎修	教育企画総務課 企画調整担当課長	杉原光治
指導課長	岡林敏隆	指導課 教育支援担当課長	服部道明
保健体育課長	山田裕史	生涯学習課課長代理	安東信哉
教育研究研修センター所長	中島陽子	オリエント美術館長	佐藤佳昭
地域子育て支援課課長補佐	田中光彦		
事務局(教育企画総務課課長補佐)	生田裕宣	事務局(教育企画総務課主任)	大西正記
5 議題及び結果			
第16号議案	平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について 可決		

6 教育長等の報告 [平成29年7月15日(土)～平成29年8月10日(木)]		
7/23	岡山市子ども会親善球技大会	地域子育て支援課
7/26	就学・教育相談会	指導課
7/31	ジュニアオリエント教室「神さまのからくり物語」	オリエント美術館
8/ 2	第2回岡山市教育課程研究協議会	指導課
8/ 3	岡山市消費者教育研修会	消費生活センター 指導課
8/ 4～11	岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結60周年記念事業 岡山 市ジュニアオーケストラ サンノゼ派遣	地域子育て支援課
8/ 5～7	わくわく犬島探検隊(事業中止)	地域子育て支援課
8/ 7	平成29年度「地域と学校の協働フォーラム」	生涯学習課 指導課
8/ 8	市学童水泳記録会	保健体育課
8/ 9	就学・教育相談会	指導課
8/10	しゃべりんぴつく(中学校生徒会の集い)	指導課
石井委員 地域子育て支援課課長補佐	○ 夏の期間なので、普段はないようなトピックがたくさん上がっているが、初めてなので確認させてもらいたい。1番の球技大会の概要を伺いたい。 ○ 岡山市子ども会親善球技大会だが、岡山市内の子ども会で球技をしているところで、各地区の予選を勝ち上がってきたソフトボール16チーム、ポートボール16チーム、ポートボールジュニアが11チームの中央大会ということで岡山ドーム横の西部総合公園で開催したものである。当日は保護者の方も大勢熱い声援を送られて、8時ぐらいから開会式、終了が5時ぐらいと、丸1日かけた球技大会となった。	
石井委員 地域子育て支援課課長補佐	○ 夏の暑い時期だが、熱中症など、特に問題はなかったか。 ○ 熱中症を大変心配しており、岡山市民病院から看護師に常駐してもらった。また、本部のほうでは氷等も用意しており、最悪の場合に備えていたが、幸いなことにこの日は風が通っており、熱中症で重症になることはなかった。軽い体調不良を訴える子どもが3人いたと報告を受けている。	
石井委員 地域子育て支援課課長補佐	○ サッカーやバスケットボールなど球技はいろいろあると思うが、これはソフトボールとポートボールに特化した会なのか。 ○ 基本的に、子ども会が行っているものがソフトボールとポートボールの2種目なので、その大会である。	
塩田委員 地域子育て支援課課長補佐	○ 今回は勝ち上がってきた16チームということだが、全市的にチームの数はどのような状況なのか。 ○ 情報は持つておらず申し訳ないが、子どもも少子化の影響で、これまでは単独チームでできていたところが、複数地区の合同でチームをつくるようになったと聞いている。また後ほど調べてお伝えさせていただく。	
藤原委員 指導課教育支援担当課長	○ 2番、10番の就学・教育相談会のことについて、教えてほしい。これは年間何回行われているのか。 ○ 年間4回、夏休みの期間に会場は全部同じだが、岡山ふれあいセンターを借りて開催している。	
藤原委員 指導課教育支援担当課長	○ 相談の内容はどうか。発達障害系が多いのか、そうでもないのか、いかがか。 ○ 相談内容については、就学前の手続きとして、いつまでに何をしなければならぬであるとか、発達障害あるいは知的障害も含めて、通常の学級と特別支援学級で迷っているなどである。 また、通常の学級と特別支援学級での学びの内容の違いであったり、具体的にどのような支援が受けられるのかであったり様々な相談があった。	
藤原委員	○ 特別支援学級は絶対にこの相談が必要であるのだろうが、発達障害系の子どもは、就学前の相談はどうか。医療法人のまな星クリニックが市と提携し	

指導課教育支援担当課長	<p>ている。そういうところに先に行くのか。それとも市へ先に行くのか。</p> <p>○ まず、就学相談の主体は誰が行うかという、就学前であれば、現在通園している幼稚園、保育園、認定こども園と保護者が行く。その際に、診断があるかどうか。特に自閉症、情緒の学級の利用を考慮しておられる方については、岡山市の場合は、確定的な診断があることを条件の1つとしているので、医療機関でどういう診断を受けたのかということは、その相談に乗る前に必要になってくる。よって就学が確定する前の段階で、必ずどこかの医療機関で診断を受けることが必要になるので、医療機関にも行って相談をされている。まな星クリニックだけではなく、発達障害の診断を受けられる医療機関は本当に増えている。かつては2、3箇所の医療機関だったが、今は10ぐらいの医療機関での診断によって児童を就学させることになっている。</p>
藤原委員	<p>○ お聞きしたかったのは、まな星クリニックは市と特別な連携をとっているのか、それとも一般的な医療機関のひとつとして診断をするものなのか。</p>
指導課教育支援担当課長	<p>○ 一般的な医療機関のひとつということになるが、要請があれば、医療機関で保護者が集まっているところに教育委員会の指導主事を派遣して、就学の説明をすることがある。現在、まな星クリニックへは年に2回説明に行っており、保護者の集まりに参加させていただき、質疑応答の形で、就学に関する相談を受けようとしている。</p>
藤原委員	<p>○ よく保護者とのつながりで、今、どこも手いっぱい、診断してもらうのに3カ月から半年と、待ちが多いように聞かすが、それはどこの医療機関でもそうなのか。</p>
指導課教育支援担当課長	<p>○ そうである。先ほど申し上げたように、医療機関の数は増えているが、それよりも診断を受けたいというニーズが増えており、およそ2、3カ月待ちということは聞いている。医療機関も考えておられ、適宜医師の増員を図っているようである。基準に照らしてきちんと診断するには複数回診察が必要になってくる。</p>
奥津委員	<p>○ 5番の消費者教育研修会だが、テーマと、どのような形で研修会を行ったかということと、そして、それをどういうふう現場でつなげていくのかというあたりについて教えてほしい。</p>
指導課長	<p>○ 消費者教育は、法律で積極的に推進するようにと位置づけられている。「消費者教育の推進に関する法律」という法律だったと思うが、それを受けて、市民生活局の消費生活センターがいろいろとコーディネートしながら、岡山市の消費者教育を推進するという事で、連携して動いている。</p>
奥津委員	<p>○ その動きのひとつとして、教員にも啓発を図るということで、初めて実施した研修会である。小中学校から1名ずつ参加を呼びかけた。内容は消費者教育支援センターという組織の研究員の方から、消費者教育の概要を講義いただき、その後、グループに分かれてのワークショップ、掲示物の作成を行った。</p>
藤原委員	<p>○ 特に中学生への教育はできるだけ早目に行ってほしい。社会に出たときに非常に注意しなければならないことがたくさんあると思うので、特に中学校3年生のあたりでしっかりやらなければならないと思う。</p>
教育長	<p>○ これは例えば、だまされたりすることに遭ったとか、よく言うワンクリック詐欺などは消費者生活センターに相談することもあるが、それとは余り関係はないのか。そういう話もされるのか。</p>
指導課長	<p>○ そういった対処法なども、一部社会科の公民という分野の中では触れられている。また契約のあり方や消費者基本法、そして自立した消費者としてはどのような要素を持つべきなのか、クーリングオフの問題なども学習内容の中に入っている。おっしゃるとおりこれから消費生活を送るので、最低限の知識は必要かと思う。</p>
藤原委員	<p>○ 6番の「岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結60周年記念事業 岡山市ジュニアオーケストラサンノゼ派遣」の概略を教えてください。</p>

<p>地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 今回60周年記念事業ということで、団員48人がサンノゼに行き、合同演奏会を開いた。その48人の構成だが、小学生が12人、中学生が18人、高校生が16人、大学生が2人、そのほか大人を含めると、67人のメンバーで行ってきた。</p> <p>内容であるが、写真を持ってきたが、これが当日のサンノゼ市にあるハマースシアターでの合同演奏会での写真になる。ジュニオケから48人、サンノゼユースシンフォニーという地元の音楽団体、これが80人ぐらい来て、総勢130人ぐらいが同じ舞台に立って、「星条旗よ永遠なれ」と、「ふるさと」をお互いにアメリカ、日本を代表する曲ということで合同演奏した写真である。</p> <p>その後、ハマースシアターで記念撮影をこのように撮った。このハマースシアターだが、4月末に市民訪問団が行って演奏会をした場所と同じである。このようにわざわざ宣伝もしてくれ、サンノゼ市の方は非常に温かく受け入れてくださった。</p> <p>その後、お互いの団の交流で、サンノゼユースシンフォニーの保護者の方が、アメリカンパーティーを開こうということで、近くの教会をお借りし、現地の保護者の方が食事を持ち寄ってくださって、交流を深めた。</p> <p>そして、翌日は、近隣のロスガトス市の高校へ行き、施設内を見学させていただいた。その説明を、その高校の生徒にさせていただき交流を深めた。</p> <p>今回6泊8日という長い期間ではあったが、非常に充実した派遣だったように思っている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 文化の交流をはじめとして、子どもが世界に目を向けるようなことをフォローできれば良いと思った。</p>
<p>石井委員 地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ この費用は、市が負担しているのか。</p> <p>○ そうである。まず、派遣にかかわる費用ということで、1人35万円の費用がかかっているが、その費用の3分の1を市費で、3分の2は自己負担ということで派遣に至っている。</p>
<p>石井委員 地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 3分の2が自己負担か。</p> <p>○ そのほか、今回は、大きな楽器を飛行機で運ぶことが困難だったので、現地でレンタルしている。そういった費用は、実行委員会に負担金として市から渡ったものが実行委員から支出される。全体で1、500万円の予算で考えている。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ そうしたら、岡山市の中でも、希望者が行くという、団の中でも希望者の人が行くという位置づけになっているのか。</p>
<p>地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 団には90人ぐらい在籍しているが、費用的な面もあり、日程がちょうど中学校、高校の吹奏楽部のコンクールと重なるということで、そういった学校事情も考えながら、今回、半分強の48人の派遣となっている。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 3番のジュニアオリエント教室だが、対象者と公募と内容について教えてほしい。</p>
<p>オリエント美術館長</p>	<p>○ これはいわゆる夏休み期間中のワークショップである。現在、当館では「カミとヒトのものがたり」という神話展を開催している。ワークショップの参加者に展示の解説した後、クランクを使ったおもちゃを作ってもらおうというものであった。対象については小学校、中学校で、当日は15名ずつ募集したが、結果として33名となっている。保護者の方も同伴してこられたが、非常にクオリティーの高い物を作っていただけたと考えている。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ こういったワークショップのようなことを年間何回ぐらい開催しているのか。</p>
<p>オリエント美術館長</p>	<p>○ このジュニアオリエント教室については、夏休みの期間の休館日である月曜日を利用して実施している。それとは別に、いわゆるワークショップについては、一月に2回程度開催している。また特別展に合わせて、その都度、その特別展のテーマに合わせたワークショップを企画している。それを1回か2回を計画している。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 11番のしゃべりんぴっくについて、新聞にも出ていたようだが、テーマや様子を教えてほしい。</p>

<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ シャペりんぴっくは、昨年から始めたもので今回2回目、38中学校うち36中学校から生徒117人、教員47人が参加した。2時間半の中で、前半がポスターセッションということで、各生徒会がポスターをつくってきて、それぞれの生徒会で頑張っていることを紹介した。岡山中央中学校は中央中スタンダードということで、品格教育に取り組んでいることを書いていた。藤田中学校はボランティアに特化し、様々なタイプのボランティアを行っていることを紹介した。</p> <p>前半はグループを3つに分け、発表する人、見る人ということで入れ替えて紹介していった。後半は車座になって中学校教育研究会特活部会の教員がファシリテーターになり、2つのテーマでグループ討議をした。討議の柱は、1つ目がリーダーに必要なことは何だろうということが1つ。それから2つ目が、岡山市を活性化させるためにできることは何だろうという2点で、画用紙に自分の思いを書いて、1人ずつ発表していくという取組をした。最後は、ファシリテーターである教員が抜けて、自由に情報交換した。最後には参加した子どもの表情が本当にみんなにこやかになって、全く初対面の子どもたちだけだったが、非常に良い会になったと考えている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 生徒会の子たちの様子はどうであったか。リーダーとして悩んでいるような意見も出ていたか。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ やはり部活動との兼ね合いがどうしても中学校の場合もあり、どちらを優先するかということをも自分自身も悩んでいたり、あるいは活動をもっと活発にやりたいけれども、部活の時間があるので、そんなに大規模にはできなかったり、そのあたりをどういうふうに工夫していくかという議論が印象的だった。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ このシャペりんぴっくは、今年実施したことのテーマを次年度に引き継いでいくとか、解決策を考えたとか、そういう取組にはならないのか。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ 生徒会をしている子どもたちは、基本的には入れかわるので、今年度感じて帰ったこと、話をして気づいたことを持ち帰って、各学校の活動に生かすというところで、次年度は次年度の、また新たな課題について討議をしようことになると思う。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ おそらく、今の部活の両立であるとか、勉強との両立であるとか、どういうふうに体制をつくっていくとか、スマホの問題であるとか、全体の共通点も幾らかはあると思うので、そういう焦点化したのもいいのかなと思った。先ほどの発表内容を聞くと、様々なテーマを発表することが学校同士の刺激にはなる。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ 現在アンケート集計中であるが、その意見の中では、大変参考になり刺激を受けたというようなアンケート結果が多く見受けられる。</p>
<p>教育長 全委員 教育長</p>	<p>○ 他にはよいか。 ○ &lt;なし&gt; ○ では、事業報告を終わる。</p>
<p>7 議事の概要</p>	
<p>教育長 教育長 全委員 教育長</p>	<p>○ ただいまから8月岡山市教育委員会定例会を開会する。 ○ 日程第1、会期について、本日1日限りとしてよいか。 ○ &lt;承認&gt; ○ 日程第2、こちらに7月開催の臨時会と定例会の議事録がある。順次ご覧いただき、問題がなければ署名願う。</p>
<p>全委員 教育長</p>	<p>○ &lt;承認&gt; ○ 日程第3、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 次に、議事に入る前に会議の公開、非公開について諮る。日程第4の報告第19号及び第20号は、教育事務に関する議会の議案についての市長への意見の申し出に関する事項として、会議規則第7条第1項第3号に該当するため非公開としたいと思うが、委員の皆様、いかがだろうか。</p>
<p>全委員</p>	<p>○ &lt;承認&gt;</p>

<p>教育長 教育長</p> <p>教育企画総務課企 画調整担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日程第4の報告第19号及び第20号は非公開と決定する。</li> <li>○ それでは先に、日程第5第16号議案、「平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」であるが、教育企画総務課から説明願う。</li> <li>○ 第16号議案、平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について説明する。        本議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書を、別紙のとおり議会へ提出するとともに、これを公表しようとするためのものである。        定例会資料「平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」の1ページをお開きいただきたい。        ここには、岡山市が目指す子ども像について、岡山型一貫教育と地域協働学校を2つの柱とすることについて、全ての取組で人権尊重の理念を大切にすることについて、全ての教育活動にESDの視点を生かしていくことについて記述している。        2ページをご覧ください。本点検・評価は、「教育行政の組織的・継続的な改善」「市民への説明責任」といった目的から、法に基づいて実施しており、今回対象となるのは、平成28年度の教育委員会の活動と、第1期岡山市教育振興基本計画に基づき策定した平成28年度アクションプランに掲載した事務事業である。        3ページをご覧ください。3ページから6ページまでは、教育委員会会議の開催状況とその他の活動状況について、記載している。5ページには、総合教育会議への出席状況についても掲載している。        7ページをご覧ください。7ページには、第1期岡山市教育振興基本計画の概要と、本市の教育行政のPDCAサイクルについて掲載している。        8ページをご覧ください。8ページから9ページには、第1期岡山市教育振興基本計画の6つの政策・15の施策の体系に基づき、それぞれの主な事業を掲載している。        10ページをご覧ください。10ページから14ページには、平成28年度アクションプランに示したクローズアップを掲載している。クローズアップは、本市教育の喫緊の課題の解決に向けて、事業間、施策間の連携を図りながら、横断的かつ重点的に取り組んだ事業をテーマごとに紹介したものである。        15ページをご覧ください。15ページから30ページは、それぞれの施策ごとに自己評価を行った部分である。ここでは、教育振興基本計画に掲げた評価指標に基づいた施策の評価を行っているが、評価資料として「岡山市の教育に関する総合調査」や「全国学力・学習状況調査」などの結果も参考にし、より客観的な評価ができるように努めている。今回は、第1期計画の終期ということで、その達成状況を星印の数で示すようにしている。        成果と課題の欄には、施策の目指す姿に対し、施策を行ったことで得られた成果と課題を、今後の方向性の欄には、施策の今後の展開を見据えた方針を、主な事業の欄には、施策実現に向けて実施した主な事業を紹介している。        31ページをご覧ください。ここは、6つの政策ごとの評価を示した部分である。各施策の評価指標を基に評価を行っている。ここまでが教育委員会としての自己評価の部分である。        32ページから34ページをご覧ください。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条には、点検・評価を行うに当たって、学識経験者の知見を活用することが義務付けられており、教育委員会による自己評価部分について、3名の外部評価委員の方に評価をしていただいた。今年度の外部評価委員は、岡山大学大学院教育学研究科教授の高瀬淳氏、岡山大学大学院教育学研究科教授の熊谷慎之輔氏、そして、株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長の藤原恵子氏にお願いした。また、7月12日には、外部評価委員と教育委員会が意見交換を行うことにより、本市の教育行政の改善すべきポイントを明確にし、今後の教育行政に生かすことを目的とした外部評価委員会会議を開催</li> </ul>
--	---

した。

35ページをご覧ください。会議で出された主な意見について、「教育行政について」と「点検・評価システムについて」の2つに分けて整理している。まず、教育行政については、全般的に、教育振興基本計画に基づいた継続的・安定的・計画的な教育行政が行われており、事務の管理・執行が適切に行われているという評価をいただいた。学力の向上を目指した取組については、教師の育成が鍵となること、そのために教育研究研修センターの役割がますます重要視されてきており、中核センターとしてのハード・ソフト両面の一層の拡充が求められるとの意見があった。また、学校の教師同士や学校と家庭、学校と地域が、学力向上に向けた同じビジョンを共有してつながっておくことが必要との意見があった。岡山市地域協働学校についても議論になった。教育委員会の取組が市民に十分に伝わっていない、もっとメッセージ性のある言葉を発信してはどうかといったご意見や、地域協働学校の仕組みはできたが、その理念が十分に広がっていないのではないかという指摘をいただいた。次に、本市の点検・評価システムについては、教育行政のマネジメントサイクルの確立や報告書における達成度の数値化、報告書の視覚化などが進んでいる、また、年々改善を重ね、施策の評価が充実してきているという評価をいただいた。点検・評価報告書の構成については、もっと子どもたちの成長という視点で点検・評価してほしいといったご意見や、市が目指す教育のストーリーについて、イメージ図とともに言葉で表現してほしいといったご意見をいただいた。

36、37ページをご覧ください。ここには、自己評価、外部評価を踏まえ、教育行政及び点検・評価システムについて、改善のポイントを明確にし、今後とるべき方向性について記載している。教育行政については、学力の向上に向け、学力調査の結果を生かし、子どもが主体的・協働的に学ぶ授業づくりの研究に中学校単位で取り組んでいくこと、教員の指導力向上のために、引き続き学校園内でOJTが効果的に機能するよう支援するとともに、育成指標に基づいた効率的・効果的な研修計画を確立していくことを示した。問題行動等の解決に向けては、教育委員会が積極的に学校訪問による実態や対応状況の把握を行うとともに、効果があった学校の取組の周知などを行うことを示した。

「協働体制の確立」という点では、岡山市地域協働学校の研修会やフォーラム等で地域協働学校の理念の共有を図るとともに、よりよい取組が広がるように工夫していくことを示した。「広報の充実」については、岡山市の教育が目指す姿の資料や点検・評価報告書の構成について、市民、学校など相手をより意識したものとなるよう改善を図るとともに、より多くの方に幅広く啓発できるよう工夫していくことを示した。次に、点検・評価システムの改善については、評価指標が何を目的として評価するのかを明確にし、子どもの変容等が的確に評価できるように研究していくことを示した。点検・評価の活用では、主管課である教育企画総務課が中心となって全体的なビジョンのもとに企画立案を行い、さらに中身のある「選択と集中」が行えるよう改善を図っていくことを示した。ここ数年、点検・評価において「選択と集中」の必要性を指摘されてきたが、担当課主体ではなかなか進んでいないのが現状であり、事務局全体を見渡せる教育企画総務課で、イニシアチブをとっていきたいと考えている。

38ページ以降は、自己評価の基となった各事業と政策・施策の評価指標の一覧を参考として示している。

以上で、平成28年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書についての説明を終わる。ご審議のほど、よろしくお願ひしたい。

- それでは何かご質問、ご意見はあるか。
- 36、37ページで、点検・評価、今後の方向性を記載いただいている、その中で、内容としてはかなり強い決意を表明した中身となっていて、その点について教育委員会としては意思を表示しているという点で、非常に良いと感じている。とは言っても、また今年それを実行していく中で、その中身についてはまた評価を受けることになると思うので、その中でまたさらにブラッシュアップをしていく形になっていけばいいかと感じている。

教育長  
石井委員

<p>藤原委員</p> <p>教育企画総務課企画調整担当課長</p>	<p>○ 以前、36、37ページでいろいろ出た話は、変更点として組み込まれたのか。</p> <p>○ 36、37ページの、文末の表現がやや客観的な書き方であったことから、「何々します」、「確立します」、「促進します」という主体的な、前向きな表現に変えている。</p> <p>それから、37ページの評価指標のところ、子どもの目線などがもう少しあらわれるようにということで、それぞれの施策が目指している、子どもの成長等をより適切に評価できるよという言い方で修正を行っている。</p>
<p>藤原委員</p> <p>教育企画総務課企画調整担当課長</p>	<p>○ この後の使い方で、今日の新聞に掲載されていた市の審議会でも学力が出ていた。あれは何か資料を使って話が出たのか。それとも、一般的に岡山市の子どもたちの学力がというところで話題になったのか。</p> <p>○ 新聞に出ていたのは、基本政策審議会の様子だったと思う。そこでは、昨年度岡山市の第6次総合計画の前期中期計画を審議している。これが平成28年度から32年度までの計画で、その28年度の実績報告書を別途作成しており、それに対する意見をもらう審議会であり、そのときに全国学力・学習状況調査の偏差値がその報告書に出ているので、それに基づいた委員のご発言だったということである。</p>
<p>石井委員</p> <p>教育企画総務課企画調整担当課長</p>	<p>○ 聞き漏らしたかもしれないが、これを情報として出すのは、どういう形式で誰にどのようなタイミングで出すことになるのか。</p> <p>○ 本日、決定いただいた場合、8月議会に報告を行う。実は、法的にも議会に報告ということが定められている。8月28日の議会前の市民文教委員会で説明をし、それから本会議初日に議長がこういう報告が教育委員会から来ているということで、全ての議員にこの報告書が行くようになる。加えてホームページで公開をする。学校にも教職員が見ることができるグループウェアがあり、そちらに掲載したいと思っている。</p>
<p>塩田委員</p> <p>教育企画総務課企画調整担当課長</p>	<p>○ 私もいつも点検・評価の報告書を読ませていただき、選択と集中を図り、わかりやすい文面になっていると感じている。28年度ということなので、クローズアップされたものに対する総括が必要かなとは少し感じた。重点事業として4つまとめられて、さまざまな施策の中からピックアップをされて、まとめて4つの事業をやられているわけだが、今回その評価はどうだったのか。もう一回、これを改めて見直すと、このページを参考にしてくださいと書いてあって、そこを見ると、クローズアップで取り上げられたものというよりは、施策の中での評価になっている。なので、一つ一つの4つの項目について、それぞれの評価は必要、そこまで詳しくは書かなくてもいいのかと思うが、10ページにこういうクローズアップで4つの施策をやりました。それに対して、28年度はこう点検し、評価をし、こういう課題が見えてきましたというものがあるのもいいのかと思う。もちろん29年度の施策には反映できないけれども、それを次年度、30年度には話していくことができるのかなと感じた。</p> <p>公表のところで、市民向けにも公表するというので、ホームページに出されるのか。読むことは大変かと思うが、クローズアップのところはともわかりやすくまとめられていて、こういうことに力を入れているということ、市民の皆さんも見たらよくわかると思う。それに対して、それこそ1ページぐらいで総括みたいところがあれば、それだけでも十分なのかというのがあった。</p> <p>それで、改めて読むと、高瀬先生がそのところを指摘されていて、市民に対する説明責任があるということで、PDCAを回すところが重要と書かれていたなと思ったが。来年度に向けての議論だが。</p>
<p>教育企画総務課企画調整担当課長</p>	<p>○ ここ数年、毎年改善をしていく中で、実はクローズアップについての評価をした年もある。ご意見を受けて取り入れた年もある。ただ、その後の施策評価の部分とかなり実は似てくる部分があり、クローズアップなので施策横断的だが、どこかの施策がかなり中心を占めていると、その施策評価と似てくる部分もあり、今回はその評価、クローズアップとしての評価をつけていない形にしている。ただ、まだまだこれで完成したものとは思っていないので、よりよいものにしていく。先ほど、少しお話はしたが、実は今年から市全体の取組、</p>

塩田委員	<p>実績報告書がまた別にあり、そちらにも教育部分が出てくる。それとこの点検評価、今年は別々に作らざるを得なかったが、同じ年度の同じ施策や事業を対象にした評価なので、どのように効果的、効率的にリンクさせていけるのかを今年度の後半をかけて研究したいと思っているので、その中で今のご意見も参考にし、研究していきたいと思っている。</p>
奥津委員	<p>○ 多分私は今年のイメージがあり、一つ一つの項目について同じ評価をされていたが、それがなくなり、反対にすっきりしたなとは思った。ただ、それだとそのままという感じがしたので、全体的なものとして、4つの施策をやって、全体的なのが1つあったら良いかという気がした。</p>
教育長	<p>○ この間も少し出たが、36、37ページのあたり、非常に全体としてネガティブなというか、反省や十分ではないという評価をして、それに対してこうやりますという構成になっているので、反省を先に生かすというか、だからこそ決意の部分が非常に大きなウェイトを読んでいると占めて、決意のほどが伝わってくるような感じが非常にあるなと思い、だからこそ、これからのアクションというか、それにきちとつなげていくのが重要になってくるなというのを非常に強く感じる形になっているのではないかと思う。</p> <p>というわけで、良いことばかり言ってもしようがないので、改善点をしっかり出し、しかもそれはしないがしろにしないという決意が感じられるので、これでどんどん進めてもらうきっかけにしていけばいいのかなと思う。</p>
全委員 教育長	<p>○ それでは、第16号議案、点検・評価報告書について、原案どおり可決してよろしいか。</p> <p>○ &lt;承認&gt;</p> <p>○ 第16号議案を原案どおり可決する。</p> <p>以上で、公開議案の審議は全て終了する。次は非公開の審議に移る。</p> <p>-----[非公開部分 省略]-----</p>
教育長	<p>○ これで8月岡山市教育委員会定例会を閉会する。</p>

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 0名

平成29年8月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成29年8月22日（火）		
2 開会及び閉会	開会	14時20分	
	閉会	14時50分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	安田充年	教育次長	天野和弘
統括審議監（企画調整担当）	小西洋史	審議監（社会教育担当）	澤岡哲雄
審議監（企画総務担当） （教育企画総務課長事務取扱）	村田守	審議監（生涯学習担当） （生涯学習課長事務取扱）	近藤康彦
審議監（公民館担当） （中央公民館長事務取扱）	西崎修	学校施設課長	齋藤和美
指導課 教育支援担当課長	服部道明	生涯学習課課長代理	安東信哉
事務局 （教育企画総務課課長補佐）	生田裕宣	事務局 （教育企画総務課主任）	大西正記
5 議題及び結果			
報告第19号	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）	承認	
報告第20号	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）	承認	